



園
貞
堂

経
子
家
和

三十一編下

~ 13
1178
62

原
中



志
ね
福

三十一編上

~ 13
1178
61

三十一編上



志 奴 知 福



三十一編上

1178
61

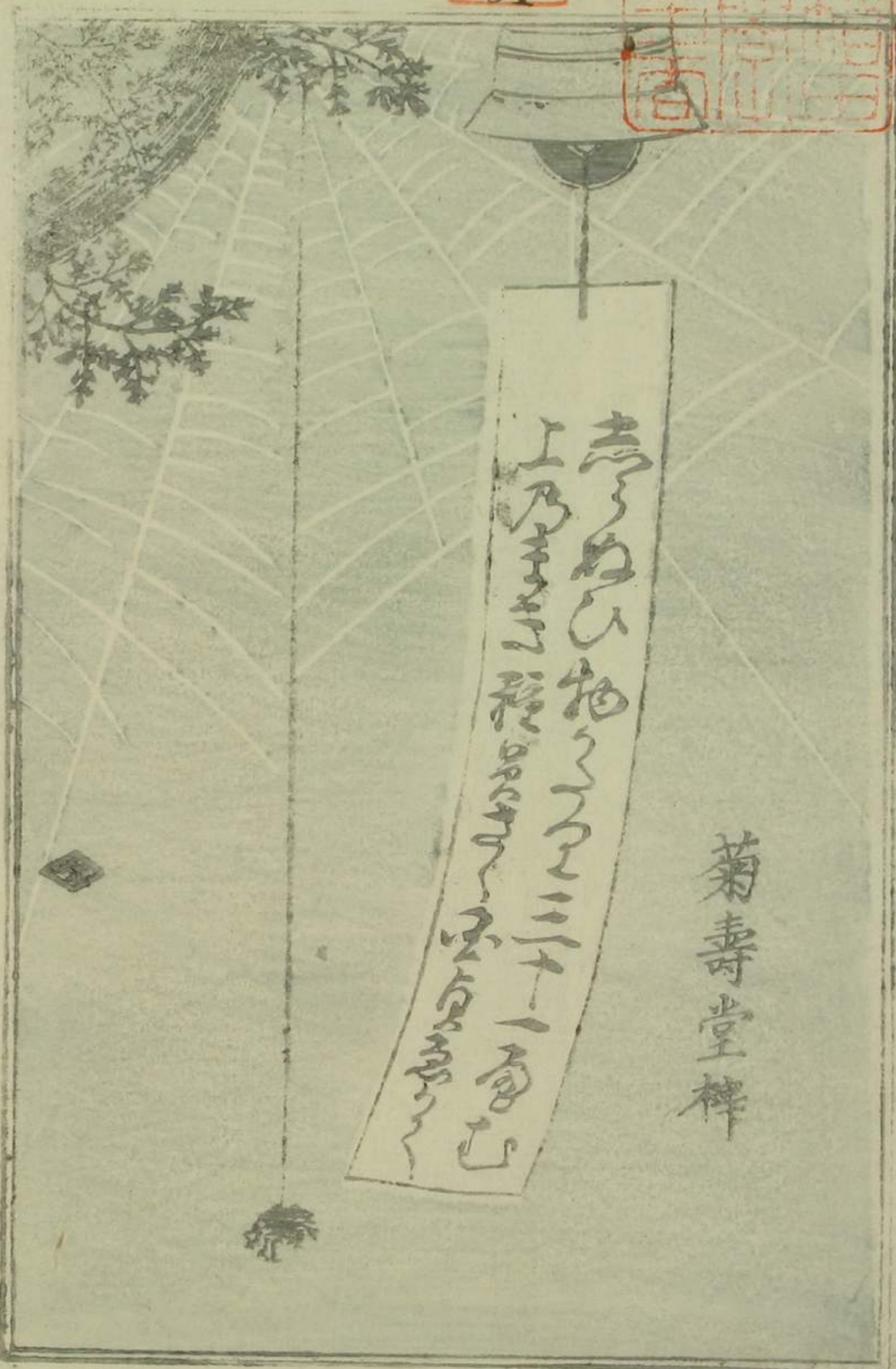
Vertical red stamp with illegible text



13
1178
61

菊壽堂梓

志しぬい物ころこ二十一
上乃まきし程もきくまふまきし

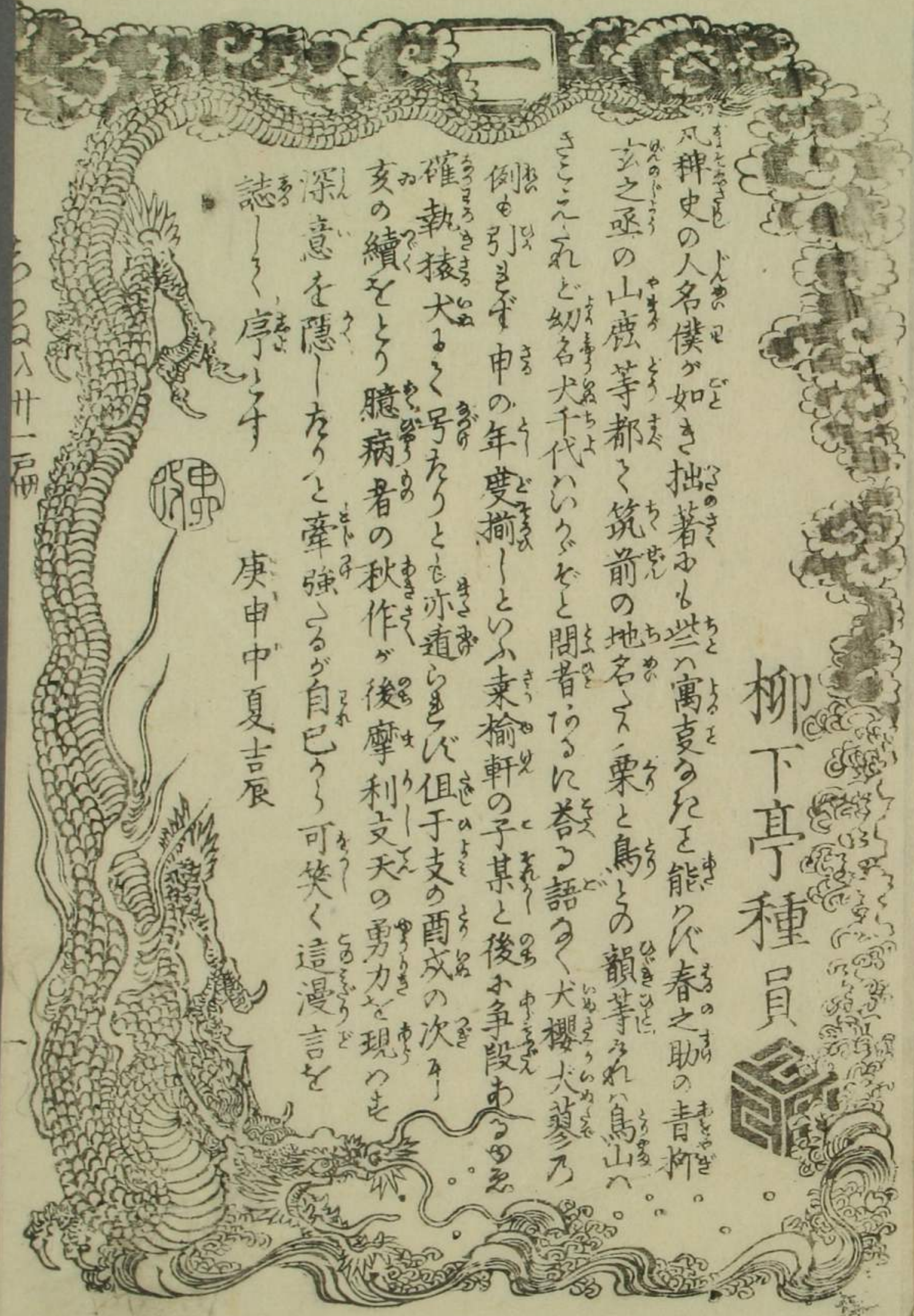


柳下亭種員



凡辨史の人名僕が如き拙著おも此の寓意をたし能く代春之助の青柳
玄之丞の山鹿等都く筑前の地名を栗と鳥との韻等なれ鳥山ハ
さしこへれと幼名犬千代いひくを問者あるに答る語りく犬櫻犬薺乃
例も引きぞ申の年雙揃しといふ東楡軒の子某と後小争段あるも
確執様犬もく号たりとも亦道らむべ但于支の酉成の次
亥の續をとる臆病者の秋作が後摩利支天の勇力を現は
深意を隠たりと牽強するが自己より可笑く這漫言を
誌しし序とす

庚申中夏吉辰



のり八廿一編



市原綾機
あやとろの
あやとろ



七草四郎年忠
若菜姫ふ學び
く外道の法を
習練する圖

豊國丸



おちのち
あはれ
おちのち
あはれ
おちのち
あはれ

おちのち
あはれ



おちのち
あはれ
おちのち
あはれ
おちのち
あはれ

おちのち
あはれ
おちのち
あはれ
おちのち
あはれ

おちのち
あはれ
おちのち
あはれ
おちのち
あはれ

柳下亭種員稿

白べつあるせいの藤
そのはしとあるじよひ
ふせひつくるみ
三の巻へ



梅蝶樓國貞画

志々丸伝

五拾二編の柳下亭種員稿
六十編より一惠成り芳幾重

兩面織花田物語

初編ヨリ
五編迄
同

假名續八犬傳

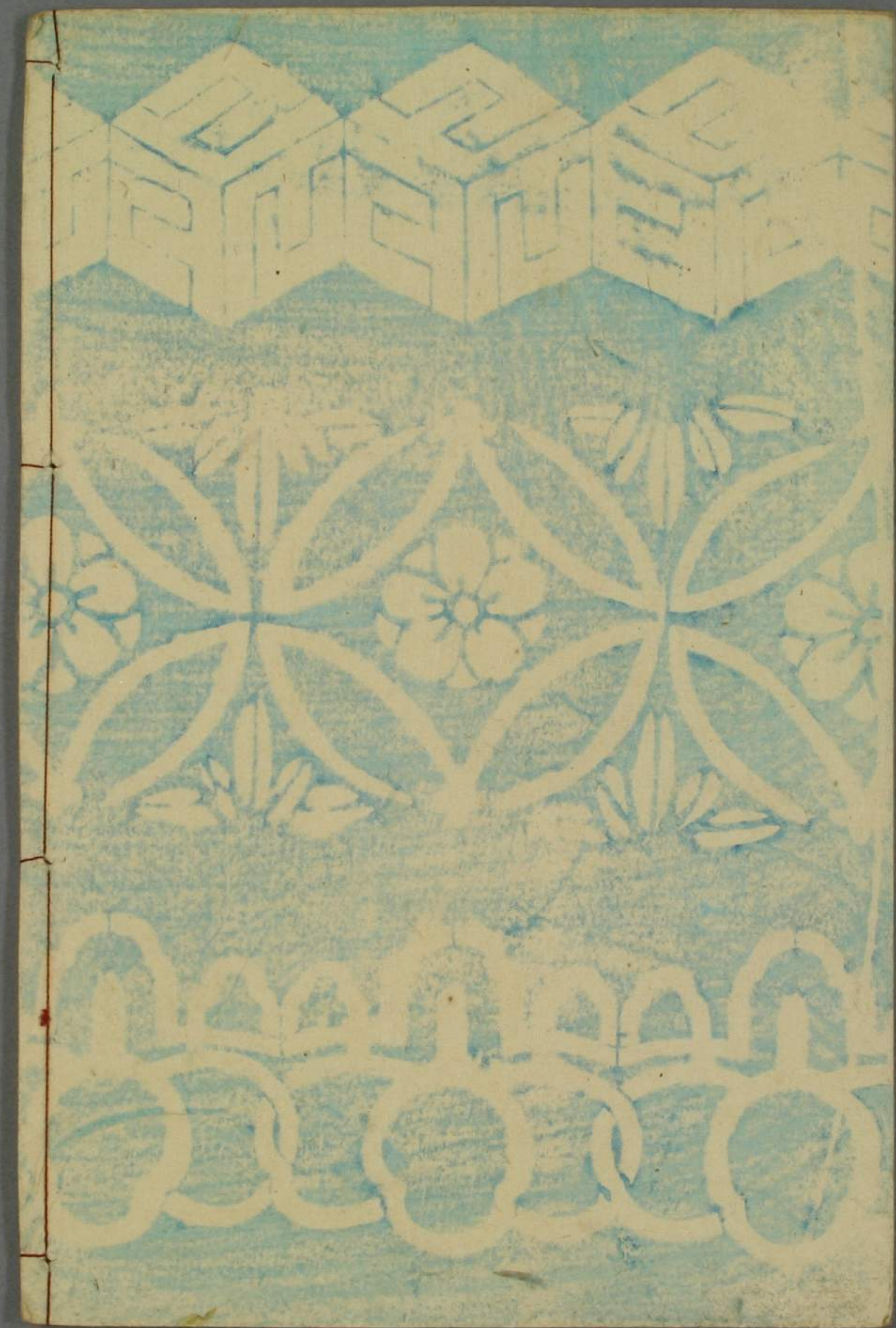
二十編の假名垣善文録
二十五編朝霞樓二方幾重

似顔大全

故豊國公羽筆
大錦 日三番續

太平記英勇傳

中錦山々亭有人記
百番續 惠齋 芳幾圖





経子

家初

只

力

三十一
下

47

13

1178

62

原

招



八十一編



老いし十一編

十一



つぎのひくふち
さへたるさたにま
んでこん九并ろく
ぬせ人のおせまのさ
まかちうをせご
まもくをせけて
ひしりなんのせあふ
男のせいの春一助
さふあつ
いのちを
まふを
ごのめく
かみちを
せんあふ
まにのせん
よりまらぬらびを
せとのありつを
とこをうけを
さのありはし
ひつろの
らちろく

かむひ
まを
さうか
もあれど
かむひ
まを
さうか
もあれど

七
めい
まう

トあ
ま



つぎのひくふち
さへたるさたにま
んでこん九并ろく
ぬせ人のおせまのさ
まかちうをせご
まもくをせけて
ひしりなんのせあふ
男のせいの春一助
さふあつ
いのちを
まふを
ごのめく
かみちを
せんあふ
まにのせん
よりまらぬらびを
せとのありつを
とこをうけを
さのありはし
ひつろの
らちろく

かむひ
まを
さうか
もあれど

七
めい
まう

トあ
ま

つぎのひくふち
さへたるさたにま
んでこん九并ろく
ぬせ人のおせまのさ
まかちうをせご
まもくをせけて
ひしりなんのせあふ
男のせいの春一助
さふあつ
いのちを
まふを
ごのめく
かみちを
せんあふ
まにのせん
よりまらぬらびを
せとのありつを
とこをうけを
さのありはし
ひつろの
らちろく

トあ
ま

